

【熊本国税局長賞】

九円の納税と私

学校法人岩田学園 岩田中学校

三年 池田 結衣

暑い。今年も猛暑だ、酷暑だと毎日毎日テレビで報道されている。私の住む大分市も例外ではなく、まるで熱帯の国にきたように容赦なくジリジリと太陽が照りつけている。そんなある日、あまりの暑さに耐えかねて、学校帰りにコンビニエンスストアによってアイスクリームを一つ購入した。女子寮に帰り着き、涼しい部屋で一息つきながら買ったばかりのアイスクリームを食べる。至福のひとつときだ。何気なくレシートに目をやるとアイスクリーム自体の値段は百二十円。それに八パーセントの消費税九円がプラスされて百二十九円。これが私が支払ったアイスクリームの代金だ。まだ十四歳、お金を自分の力で稼いだことのない中学生の私も税金を納めているのだとあらためて知った。たった九円だけど、国にお金をとられてしまったような、その九円がすごく惜しいような気持ちになった。あたり前のことだと頭ではわかっていたのだけれど。

この三年間猛威をふるったコロナウイルス感染症もここ最近やっと社会的にも落ち着きを見せてきた。今思い返してみると、その三年の間、私は県外移動した際や長期休暇から寮にもどる時などに大分駅前の抗原検査場で抗原検査を幾度となく受けた。また、コロナウイルスのワクチンも病院や集団接種会場で複数回受けた。落ち着きを取りもどした今、ふり返ってみて、立ち止まり考えてみると、そのどれも全て無料だった。その時は、それが当たり前で、特に感謝することもなく、それどころか注射嫌いな私はワクチンをうける時どちらかというと気がすすまなかった。自分の健康を守るために国が私に用意してくれたものなのに。ワクチンも抗原検査も薬代や人件費が当然かかっている、それは誰かが支払ってくれた税金でまかなわれていると今更ながらに気付いた。この国には社会全体で良くなるうとするシステムが築きあげられていて、それを支えているのが国民が支払う税金なのだ。税金は決してとられてばかりではない。たった九円を惜しいと一瞬でも思った自分をはずかしく思った。

私が今回支払った九円も、まわりまわって誰かの助けになっていてくれたら、と考える人と人助けの一部を担っているようで少し誇らしく感じた。私も誰かの当たり前を守る一人でいたい。

今回はたった九円の納税だったけど、そこには私なりの温かい思いが込められている。今はまだ中学生だけど、私の当たり前を守ってくれた多くの人たちのためにも立派な大人になりたいと思った。